

東海第二原発・再処理施設 緊急事態の首都圏への影響シミュレーション

東海第二原発の再稼働が議論となっていますが、過酷事故の可能性は否定できません。さらに近接する日本原子力研究開発機構東海再処理施設には、東海第二原発の炉心・使用済燃料プールの合計を上回る放射性物質がより無防備な状態で貯留されています。かりにいずれかが緊急事態に陥った場合に、関係者も退避せざるをえず双方の対処ができなくなる可能性があります。こうした状況を想定し首都圏への影響についてシミュレーションを行いました。添付に結果の一例を示します。一般に「30km圏」という考え方がありますが、これは影響がその範囲で収まることを意味するものではありません。条件によっては東京23区から神奈川県にまで避難が求められる区域($20\mu\text{Sv/h}$)が発生する可能性があります。地域での議論の参考にご供していただければ幸いです。なお結果は、放出シナリオ・気象条件などによって大きく変わりうる数値であり、シミュレーションの結果は簡略化した想定にもとづく一例です。

※シミュレーションの概要

^{137}Cs の地表沈着による地表1mグラウンドシャインを想定
放出初期の希ガス・ヨウ素等は考慮していない

環境経済研究所(技術士事務所)代表 上岡直見
sustran-japan@nifty.ne.jp, TEL 03-6821-6808

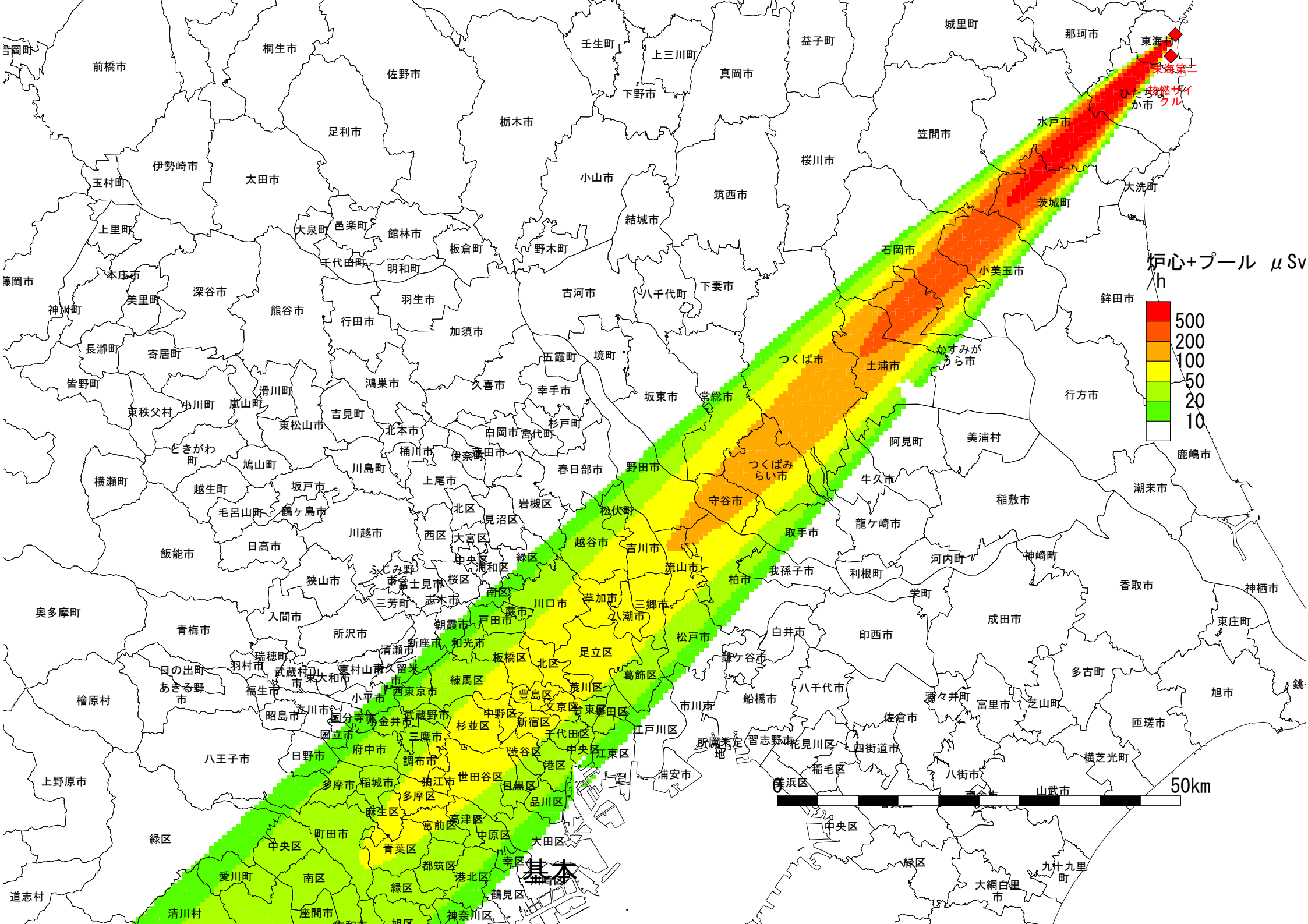
技術士(化学部門)

法政大学法学部非常勤講師(環境政策)

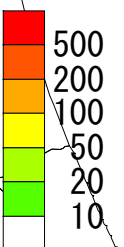
新潟県「原子力災害時の避難方法に関する検証委員会」委員

著書『原発事故 避難計画の検証』合同出版(2014)

『アラートとは何か』緑風出版(2018)



炉心+プール $\mu\text{Sv/h}$



基本